



松 明

(令和2年1月発行・隔月発行) 2020 vol. 1



P3 2019年度国立病院総合医学会発表より

「令和2年 年頭のごあいさつ」

独立行政法人国立病院機構福島病院長 杉浦 嘉泰



新年あけましておめでとうございます。昨年4月に氏家前院長から院長を引き継ぎ、皆様のおかげをもちまして無事新年を迎えることができました。

一昨年から脳神経内科診療が始まり、重症心身障害と神経難病を中心としたセーフティーネット医療に取り組んできました。昨年はリハビリテーション科に言語聴覚士2名が加わり、これまでの理学療法および作業療法に加え、摂食嚥下訓練・構音訓練・コミュニケーション訓練が本格的に始まり、嚥下障害や構音障害を伴う、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)、脊髄小脳変性症といった神経難病や重症心身障害に対するリハビリテーションがさらに充実してまいりました。また、MRIをノイズの少ないデジタルコイルを用いた最新機種に更新し、今年は神経超音波検査を導入予定です。このようにソフトウェア(人)およびハードウェア(設備)の両面で、神経難病医療と重症心身障害医療の充実を図ってまいりました。

少子高齢化が進み我が国の人口が減少していく中、医療施設が置かれる状況は年々厳しくなっております。一方、高齢者人口の増加に伴い、パーキンソン病やALSといった神経難病の患者さんは年々増えており、病態解明や治療方法も日進月歩で進む中、神経内科専門医による神経難病医療はますます重要になります。また、当院の重症心身障害児(者)病棟は東北地方でも有数の規模で、新生児特定集中治療室(NICU; Neonatal Intensive Care Unit)での診療経験がある小児科専門医が診療に当たっており、post NICUの機能を果たしております。こうした神経難病医療や重症心身障害医療といったセーフティーネット医療は、国立病院機構の施設が担う重要な役割と考えます。

本年も神経難病医療と重症心身障害医療の診療体制の更なる充実を図り、地域の医療機関との連携を強化し、福島県の医療に貢献できるよう職員一同努めて参ります。本年も皆様にとって最良の年でありますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

本号のご案内

- 令和2年 年頭のごあいさつ 1
- 鼠年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」 2
- 2019年度国立病院総合医学会発表 3
- 2019年度国立病院総合医学会 発表内容一覧 3
- 看護部だより ここが変わった! 今年の本S (一次救命処置) 研修 4
- 療育だより 第6病棟 七五三 5
- 療育だより 今年は『劇』と『マジック』クリスマス会 5
- 看護学校だより 老年看護学実習Ⅱに向けての私の課題 6
- 健康プラザ 保湿とスキンケアについて 6
- この季節の感染管理について 7
- 地域医療連携室だより 登録医のご紹介 7
- 外来担当医表 8

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

鼠年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」



栄養管理室
調理師長
古谷 俊之
(ふるや としゆき)

●新年あけましておめでとうございます。
今年も宜しくお願いします。

2020年もあり、2回目の東京オリンピックの開催で国内中が盛り上がる年、福島県も野球とソフトボールで盛り上げましょう。

「今年の抱負」とのことで考える機会を頂き、ありがとうございます。私自身も福島療養所の時代に調理助手として採用していただき40年目、子の年男として5回目、つまり還暦60歳を迎える年になりました。指導して頂いた先輩方、職場の同僚と職員の皆様に助けていただいたお陰です。出会いにも恵まれ感謝の念に堪えません。歲月人を待たずという言葉があるそうですが、まさに意味通り何もしないうちに月日が経ってしまい後悔先に立たずの日々です。

今年から一日一日を大切に仕事ができる喜び、働けることの楽しさに感謝して50の手習いで始めたゴルフに励みたいと思います。でメタボと生活習慣病の改善のために今年は肝休日を作ります。



第3病棟
副看護師長
大野 麻衣子
(おおの まいこ)

●新年明けましておめでとうございます

副看護師長になり、4年が経ちました。先輩方、病棟スタッフの皆さん、師長さんにたくさんのご指導をいただきながら、ここまで働くことができました。

そして何より力になったのが、患者さんの姿です。入院生活の中で、家族に会えないさみしさやつらさを抱えながら、様々な疾患や障害を持ちながらも、毎日笑顔で、その姿を見てこちらが元気になれる。患者さんには楽しく、落ち着いて生活できるよう、ご家族には安心してお子さんを預けられるよう、これからも頑張っていきたいと思えます。

今年もよろしくお祈りいたします。



医事企画連携室
専門職
後藤 紀幸
(ごとう のりゆき)

●新年明けましておめでとうございます。

今年年男ということで原稿依頼があった時、年月の流れの早さを感じました。

というのも、12年前に同じ依頼をいただき原稿を書いたのが、つい最近のこのように思えたからです。

あの時と何も変わってないかな？と思ったのですが、変わっていないのは自分の精神年齢だけで、肉体的には着実に加齢していることを思い知りました。

当院に赴任してから3年が過ぎましたが、この間だけでも、老眼が進行して近くの文字が見えにくくなったこと、単なる腰痛かなと思えばヘルニアであったこと、眠りが浅くなってきたこと等、例を挙げるときりがなくなってきたのでこのへんにしておきます。

子年は十二支の中で最初の干支です。気持ちを新たに、今年もよろしくお祈りいたします。



療育指導室
児童指導員
福田 萌々
(ふくだ もも)

●新年明けましておめでとうございます。

4月から新社会人として福島病院で勤務し、1年が経とうとしています。昨年までの大学生活から一転し、働き始めてからは毎日が試行錯誤の日々でしたが、療育指導室の先輩方や病棟スタッフの皆様などたくさんの方々を支えられ充実した時間を過ごすことができました。また、学校では学べない現場でのスキルを教えていただき、とても勉強になっています。

この1年間は新しい環境に慣れることに精一杯で、児童指導員として、患者さんやご家族に対する細やかな支援が不足していたと感じています。今年は、更にステップアップできるように、かつ初心を忘れずに頑張りたいと思います。患者様に楽しい時間と充実した生活を提供できますよう更に努力していきますので2020年もどうぞよろしくお祈りいたします。

2019年度国立病院総合医学会発表

第1病棟 看護師 岡崎光江

今年度は東海北陸グループの方が中心となり11月8日・9日、第73回国立病院総合医学会が名古屋国際会議場にて開催されました。私は緩和ケア・エンゼルケアのブースでポスター発表に参加させて頂きました。

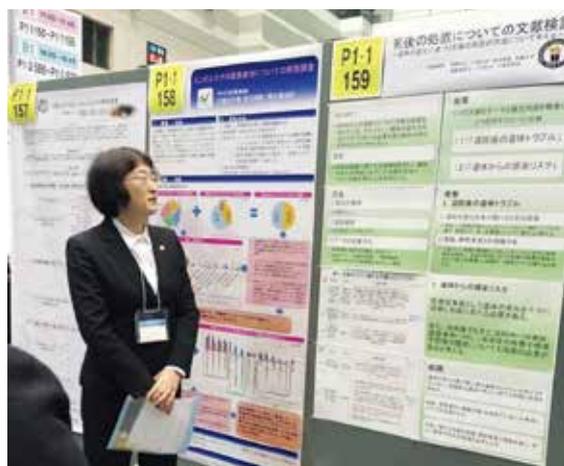
死後の処置についての文献検討（ご遺体の変化に基づく死後の処置の方法について考える）テーマでポスター発表をしました。

発表に関して、研究をまとめるまでアドバイスを頂いた先生方、発表原稿・ポスター作製に関わって頂いた病院スタッフのサポートもあり、緊張しながらも無事発表することが出来ました。フロアからも質問を頂き研究内容の振り返りにもなりました。

また、他施設の発表で印象に残ったのが、京都医療センターの発表でした。患者様の代わりに延命治療に関する意思決定を行うキーパーソンへの看護の重要度と実践の難しさでした。意思決定の方法には様々な方法があり、答えがあるわけでもなく一人で考えてしまう事があります。これはキーパーソンと関わるスタッフにも言えるこ

とです。それに対し一人で考え込まずに他者の意見を取り入れながら、多職種共に情報共有しより良い支援が行えるよう関わることが大切だと再認識しました。

今回、得た経験を日々の看護に活かして患者様と接していきたいと思います。このような貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。



2019年度国立病院総合医学会 発表内容一覧

管理課 庶務係 熊澤 龍

今回の学会でのポスター発表は243件、口演が63件、ワークショップは13件でした。当院からは、7名が発表を行っています

部署	職種	氏名	演題
企画課	契約係	成田 麗	当院のベンチマークシステムを活用した診療材料費の削減方法について
看護学校	教官	原田典子	看護師国家試験対策における学生との共同活動の成果
第1病棟	看護師	岡崎光江	死後の処置についての文献検討 -ご遺体の変化に基づく死後の処置の方法について考える-
指導室	保育士	鈴木遥香	反応の乏しい未就学児への取り組み報告 ~たけのこクラブの活動を通して~
C E 室	主任臨床工学技士	渡邊 繁	慢性期病院におけるRST (Respiratory Support Team) 活動の取り組み
医事企画 連携室	診療情報管理士	安藤正次	電子カルテシステム更新を行った当院の対応について
第5病棟	副看護師長	高橋雄司	感染性リネンの院内洗濯方法の見直し (水溶性ランドリーバックの導入)



11月14日と28日にBLS (一次救命処置) 研修を行いました。毎年行っていた研修ですが、今年からは研修内容を少し変えました。何が変わったかという点、【医療者・非医療者別研修】【講師は救急救命士】【胸骨圧迫中心の実技】【シナリオステーションコーナー】の4つです。

昨年までは医療者も非医療者も同じ内容のBLS研修でしたが、医療者と非医療者では救命を行う対象や場面が違うため今年は別々に企画しました。医療者向けは「患者さんの急変対応ができる」ことが目的で、効果的な胸骨圧迫、アンビューバックでの換気、AEDの正しい使用、チームで協力し絶え間ない胸骨圧迫ができることを目標としました。非医療者向けは、「人が倒れていた場合、適切な対応ができる」ことを目的として、効果的な胸骨圧迫とAEDの正しい使用を目標として行いました。どちらの研修も「胸骨圧迫」がメインで「人工呼吸(口対口)」は、実用的ではないので行いませんでした。また、最後には「シナリオステーションコーナー」をつくり、複数のシナリオを与え、研修生自らが考え動くという応用的な内容も入れました。

11月14日は非医療者向けで、参加者は12名でした。折しも「NHO本部」の抜き打ち調査の日に重なってしまい、どうなることかと思いましたが無事終了できました。この日は救急救命士さんに講義や実技指導に入って頂き、窒息の解除や胸骨圧迫、AEDの使用を丁寧に分かりやすく教えて頂きました。研修生も胸骨圧迫を何度も何度も行い、疲れたと思いますが、体で覚えることができましたと思います。11月28日は医療者向けで、参加者は15名でした。脳神経内科の根本先生に講義を行ってもらい、その後グループ毎に演習を行いました。シナリオステーションでは「病室で心停止を発見。あなたはどのようにする？」等のお題を与え、各自で考え実践してもらいました。実際は、人が来るまで胸骨圧迫を続けなければいけませんが、1分行うのも「しんどい!!」ことが体験できたと思います。自分の限界を知り、それを声に出し、早めに次の人につなぐのも大切な事なんだと実感してもらえたと思います。

一度受講した方も、3年に1回はBLS研修を受け知識・技術を更新しましょう。研修生の皆さん、講師・アドバイザーの皆さん、お疲れ様でした。



去る11月13日(水)、6病棟に入所する2名のお子さんの健やかな成長を願い、ご家族と共に七五三のお祝いを行いました。当院の重症児者病棟では毎年、七五三を迎えるお子さんを対象に、ささやかではございますが病棟にて七五三のお祝いを行っております。

七五三当日、男の子はカッコいいスーツ姿で、そして女の子は、晴れ着姿に素敵な髪飾りをつけて参加し、いつもとは違った華やかな衣装でのお祝いに少し緊張した表情を見せていましたが、その様子もまた可愛らしく感じられました。今回の七五三では、『わかさ神社』の神主として神主衣裳を身に纏った石井副院長が、お二人に向けて祝詞を読み上げ、祈祷を行いました。その瞬間、病棟のプレイルームが本物の神社のような厳かな雰囲気になりました。

最後にご家族からご挨拶をいただきましたが、その中でお子さんに対するご家族の愛情に触れ、ご家族のみならず、

その場にいた私たち職員の間にも涙があふれ、とても感動的なものとなりました。今回、お二人の七五三のお祝いをご家族と一緒にすることができたこと、心から光栄に思います。今後も患者さんにご家族に寄り添った支援を行ってまいりたいと思います。



重症心身障害児・者病棟では令和元年12月18日(水)に各病棟でクリスマス会を行いました。今年の出し物は、特別支援学校の先生方による『劇』と療育指導室スタッフによる『マジック』を行いました。

『劇』は、話題のスポーツや流行の歌が盛り込まれ、ユーモアあふれるやり取りや動きも随所により楽しく観させていただきました。その後の療育指導室のマジックは手作り感満載の内容で、きっとその緊張感も含めて皆様に伝わったのではないかと思います。

会の最後には待望のサンタさんが登場し、各病棟へのプレゼントをいただきました。中身はCD・DVD・間接照明等、今後の療育活動に活躍しそうなものばかりでした。会が始まる前には「サンタさん来るのかなあ」と話していた方のいつも以上の喜びの様子が印象的でしたし、参加いただいた方々のたくさんの笑顔が観られたクリスマス会でした。今後も季節の行事を大切にしながら皆様と楽しいひと時を過ごせるように努力していきたいです。



基礎看護学実習Ⅱの12日間を終えて、令和2年1月から老年看護学実習Ⅱが始まります。基礎看護学実習Ⅱでは、受け持たせていただいた患者さんの病態を把握し、看護問題の明確化・看護計画立案・実施・評価までの過程を踏み、個別性のある看護が提供できるよう心掛けました。しかし、思ったようにアセスメントがすすまず、情報を捉え、対象の健康問題を分析する力が充分でないことが課題となりました。

老年看護学実習では、今までの基礎実習の課題を克服して、受け持ち患者さんにあった看護援助の実施ができるようにしたいです。老年期の特徴をふまえた看護援助の実施になるので、実習前から老年期の特徴や疾患などを勉強し、実習中に焦る事のないよう事前の準備を怠らないようにしていきたいです。個人の反省は残りましたが学生間で情報を共有することで、自分の受け持ち患者さん以外の疾患も意図的に学ぶことができるということにも気付きました。老年看護学実習Ⅱでは受け持った患

者さんへの看護援助実施はもちろん、学生グループで実習をすることで効率的な学習に繋がるよう、積極的な情報共有やチーム・指導者の方々とのカンファレンスなどを有効活用し、患者さんにとって最適な看護を提供できるよう頑張りたいです。



健康プラザ

保湿とスキンケアについて

薬剤科長 森塚 宗徳

今回は保湿とスキンケアについて説明します。

保湿というと、肌に水分を入れることと思いがちです。しかしそれでは一時的に潤っても、時間とともに乾燥してしまいます。正しい保湿とは、肌が本来持っている自ら潤う力を生かし、潤いを保つバリア機能を整えることです。

私たちの肌は、外側から表皮・真皮・皮下組織の3層構造をしています。なかでも肌が本来の潤う力を保持するために影響しているのが、表皮の一番外側にある角層です。

角層では、天然保湿因子というものが産生され、水分をしっかり抱え込んだ状態で角層細胞のなかに存在しています。さらに、角層の表面を皮脂と汗が混ざり合った皮脂膜がベールのように覆うことで、肌の内部から水分が蒸発しにくい構造となり、紫外線やホコリ、花粉、ウイルスや細菌など外部の刺激から肌の内側を守る外壁の役目を果たすことができます。

肌のバリア機能が低下すると、肌から水分が蒸発しや

すくなり、角質の保水成分が減少することでも、肌の保湿力は低下します。気温が急激に下がる秋から冬にかけてや、冷暖房が効いた室内は常に空気が乾燥しており、このような環境に長時間いることで、角層から水分が奪われて乾燥しやすくなったり、紫外線によって肌表面が日焼けを起こし、角層から水分を奪って乾燥の原因となります。

洗顔のたびに肌をゴシゴシとこすったり、スクラブ洗顔などを頻繁に行くと、角層が傷ついて水分が逃げやすい肌状態になったり、洗浄力の強い洗顔料で洗ったり、熱いお湯ですすいだり、洗顔の回数や頻度が多かかると、肌の保湿低下につながります。

洗顔後、肌につっぱりを感じるようであれば、いつも使っている洗顔料や洗顔方法の見直しを検討しましょう。



この季節の感染管理について

感染管理認定看護師（副看護師長）高橋 雄司

謹んで新年のお喜びを申し上げます。昨年中は、患者様やご家族様そして地域の皆様より、暖かいご支援やご理解を賜り厚く御礼を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

県中保健所管内において昨年末にインフルエンザの流行状況が注意報レベルへと引き上げられました。昨年度は1～2月にインフルエンザ患者数が著しく増加しており、今年度においてもこれからさらに感染者数は増加していくことが考えられます。インフルエンザの予防については毎回同じことの繰り返しになりますが、手指衛生と咳エチケットです。帰宅時や飲食前には必ず手洗いをするよう心がけましょう。

インフルエンザにかかわらず、感染症は原因となる病原微生物（細菌やウイルス）が体内に入り込むことで成

立します。皆さんの周りにこんな人はいないでしょうか。爪を噛む癖がある、鼻を触っている、目を擦っている、鼻の穴に指を入れている人は（少なくとも人前では）いないとは思いますが、お子さんには割と多いのではないのでしょうか。たぶんこれらは「無意識」にやっつけている行動なのでしょう。ただ、ここで注意が必要なのです。この時の手が手洗いをした後のきれいな手であればそれほど問題もないのですが、手洗いをしていない病原微生物がたっぴりと付着した手であつたらどうでしょうか。

無意識な行動で自分自身を害することがないように、自分自身を見つめ直すことは大切なことかもしれませんね。



地域医療連携室だより

登録医のご紹介

医療法人三恵会 春日クリニック



左：春日明院長 右：春日裕介医師

- 院長：春日明先生
- 医師：春日裕介先生
- 診療科目：

内科、呼吸器科、消化器科、在宅医療、禁煙外来

平成19年10月に開院され、患者さん中心のココロが通う医療を目指し、患者さん一人一人と丁寧に向き合い、最良な医療が提供できるよう心がけて診療にあたっております。

在宅医療も行い在宅療養の支えとして地域医療に携わっていただいております。

ホームページでは、「ゆーすけ先生のKimamaな一言」と題し、身近におこる症状についての説明が掲載されており、たいへん参考になります。

診察時間

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	● 春日裕介	● 院長	● 院長	● 春日裕介	● 院長	● 院長 春日裕介
13:30～18:00	● 春日裕介	—	● 院長	● 春日裕介	● 院長	—

●休診日：日曜・祝日・火曜午後・土曜

※受付は、診療時間終了の30分前までにお願いいたします。

※月曜日・木曜日・土曜日は裕介医師が内視鏡検査を行っております。

※鼻から診る内視鏡検査（胃カメラ）を行っております。

（予約制になりますので、事前にお問い合わせください）

※火曜日午後（施設）・木曜日は、院長が往診を行っております。

- 〒962-0844 福島県須賀川市東町119-2
須賀川税務署のすぐ裏手です
tetteより徒歩5分

 **0248-75-3551**

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【2020年1月1日より】

区	分	月	火	水	木	金
内 科	1	安 田 千 尋	安 田 千 尋			安 田 千 尋
内 科	2	佐 藤 由 紀 夫 (第1・3)				
内 視 鏡 検 査					安 田 千 尋	
脳 神 経 内 科		伊 藤 英 一	根 本 和 夫	伊 藤 英 一	根 本 和 夫	杉 浦 嘉 泰
小 児 科		福 島 医 大	石 井 希 代 子	河 原 田 勉		福 島 医 大
専 門 外 来 (発達小児クリニック)			石 井 勉			河 原 田 勉
専 門 外 来 (小児神経外来)		平 山 恒 憲 (第2) 再来のみ		石 井 希 代 子 (第2・3・4・5)	加 藤 朝 子 (第2・4)	
専 門 外 来 (小児循環器外来)				桃 井 伸 緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来		予 防 接 種 (午後)				
整 形 外 科		古 川 浩 三 郎		古 川 浩 三 郎		古 川 浩 三 郎
小 児 外 科					清 水 裕 史	
脳 神 経 外 科			福 島 医 大 (第2・4)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。
- 外来担当医表は2020年1月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)
診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

今年は、例年になく暖かな年明けとなりました。例年の大雪による運転の心配や汗をかきほどの雪かきもしておらず、この暖冬が温暖化の影響と考えると喜ばしいばかりとも言えません。大小ありますが、不安を抱えながらも毎日に感謝して、目標を共有する仲間と一歩前進していきたいと思っています。
(編集委員 K)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>